

知覚動考

寒河江市立南部小学校
校長室だより
校長 白田 敏幸

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

青山学院大学陸上部監督「原晋 氏」の考え方から学ぶこと

箱根駅伝で8度の優勝を飾り、「原メソッド」や「青学メソッド」と呼ばれる独自の指導法で、大学駅伝の界の頂点に立つ青山学院大学陸上競技部。この部を率いるのが原晋（はら すすむ）監督である。この原監督のマネジメント術は、学生の主体性を育て、自由と多様性を尊重する考え方である。

先日、「『教えない』から学びが育つ」（山本崇雄著 ウエッジ）という本を手にした。その中に、著者と原監督の対談があり、小学校教育として参考になる事柄がたくさんあったので、ここにまとめてみたい。（言葉は白田なりに解釈しているため、本とは多少違ってきます。）

【自分で山を登る力をつけるために】

- ◇ 管理教育を受けていると、必死に暗記し勉強しても、言われたことはできるが、自ら判断したり思考したりする力が育たない。子供から、「**感じて、考える力**」を奪ってはいないか。
- ◇ これだけ社会が変わってきているのに、**大人の「教育観」があまり変わっていない**。マニュアル化、標準化することで**大人が管理しやすいように**している。
- ◇ よい成績を取りたいのなら、目標を設定し、そこから逆算してやり方を学ぶ必要がある。やり方を教えるよりも、**目的を教えることが大事**である。
- ◇ 正解が分からなければ、チャレンジしかない。**失敗からしか学べない。子供たちの失敗する機会をなくしてはいけない。**

【『結果』ではなく『成長』を価値づける】

- ◇ 日常の小さな**選択させる機会**を大事にする。
- ◇ 勝とうが負けようが、一生懸命取り組むことを価値づける。努力を重ねれば、結果は出ないかもしれないが、**成長は手に入る**。
- ◇ 何を学んだのかを**自分の言葉で振り返る**ことが、単なる暗記で終わらせないために重要である。

【目標をもつために】

- ◇ 目標をもつ前に、事実をきちんと把握すること。**少し背伸びすれば届きそうな目標**がよい。
- ◇ 「できない」を「できる」に変えていく。

【子供に関わる時に大切なこと】

- ◇ ビシッと言ったら子供は聞くかもしれないが、それは、怒られるから、怖いからやっているだけで、その子の力になっていない。
- ◇ 大切なのは、「教える」ことではなく、「**気づきを与える**」こと。
- ◇ ゲームをすることが悪いのではなく、物事の優先順位をつけられないことが問題。タイムマネジメントや自己コントロールについて**子供と一緒に考える**。
- ◇ 一番大事なのは、「**あきらめずに続ける**」こと

大学生相手の指導法（支援法）ではあるが、小学校においても十分通用する内容である。我々大人が、「子供に教える」立場から、子供の側に寄り添い、「ともに考える」支援者となっていくことが、本校で目指している「子供が育つ」ことにつながっていくと考えている。